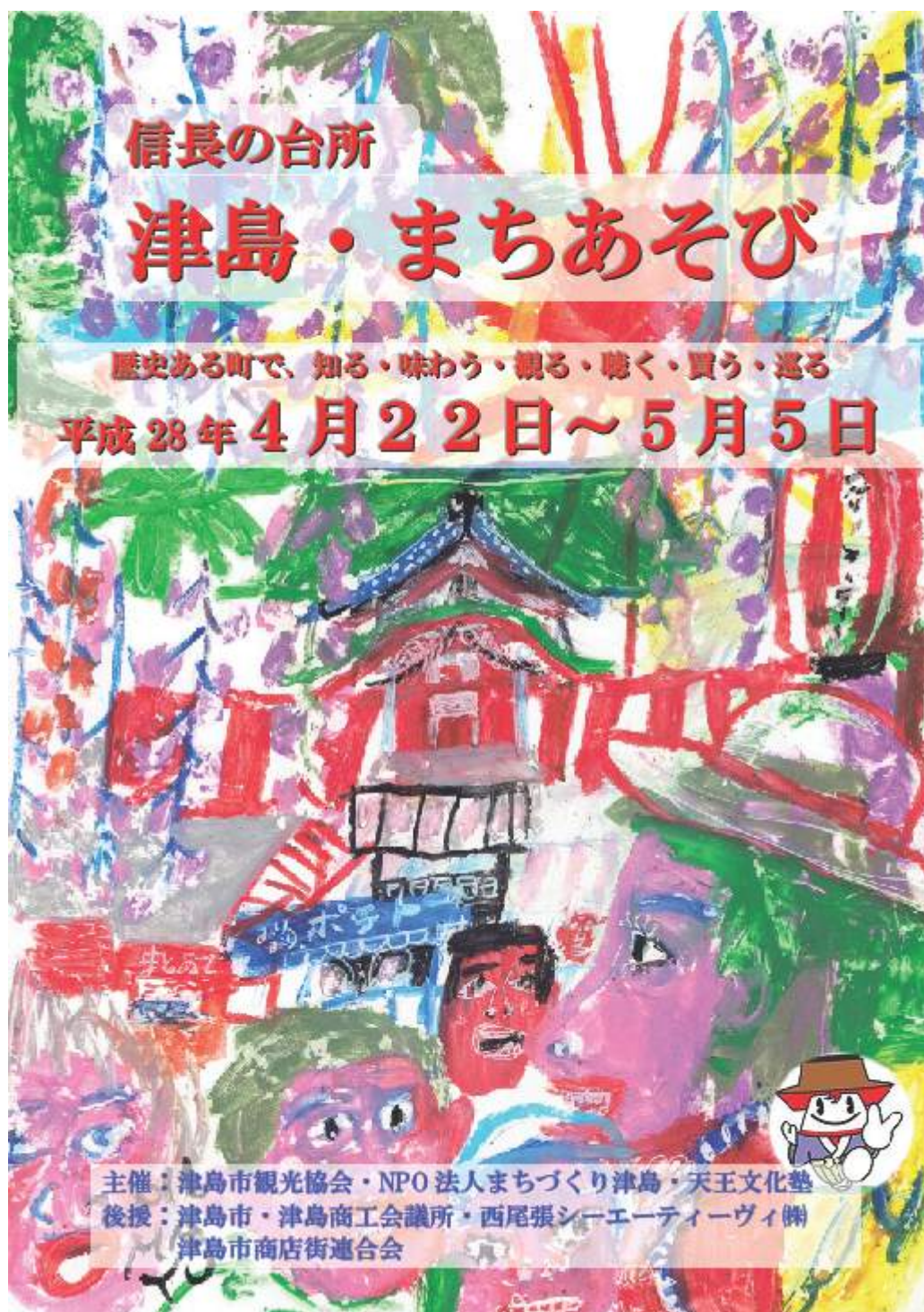


平成28年

「信長の台所 津島・まちあそび」報告書



平成28年5月18日

NPO法人まちづくり津島

# 平成 28 年「信長の台所 津島・まちあそび」事業報告書

目 次	...2
1、「信長の台所 津島・まちあそび」の趣旨	...3
1 - 1、「信長の台所 津島・まちあそび」と「まちづくり」	
1 - 2、尾張津島天王祭が世界遺産に	
2、平成 28 年「信長の台所 津島・まちあそび」	... 4
2 - 1、「信長の台所 津島・まちあそび」今年で 14 回目	
2 - 2、平成 28 年のテーマ 「おもてなし 」	
2 - 3、実行組織	
2 - 4、「信長の台所 津島・まちあそび」催事一覧表	
3、「信長の台所 津島・まちあそび」事業結果	... 6
3 - 1、《知る》	... 6
3 - 2、《観る》	... 9
3 - 3、《味わう》	...12
3 - 4、《造る》	...13
3 - 5、《聴く》	...14
3 - 6、《笑う》	...15
3 - 7、《買う》	...16
3 - 8、《健やか》	...17
3 - 9、《巡る》	...18
4、成果と今後の方針	...19
4 - 1、成果	
4 - 2、今後の方針	

# 1、「信長の台所 津島・まちあそび」の趣旨

## 1-1、「信長の台所 津島・まちあそび」と「まちづくり」

津島はノスタルジックな町である。古い町家の連なる町並みと古寺社の風景、観る人を幽玄の世界へ誘う夏の尾張津島天王祭、からくりの妙技を見せる山車や威勢のいい石採祭車が巡行する尾張津島秋まつり、国内最大級の藤花薫る藤まつり、無病息災の御神徳の津島神社。



中世以来、津島は伊勢と尾張をつなぐ湊として、また津島牛頭天王社の門前町として経済的繁栄を謳歌し、「尾張の金銀はすべて津島を通る」と言われるほどであった。勝幡に拠点を置いた織田信定（信長の祖父）、信秀（信長の父）は津島を支配することによって、勢力域を拡大した。信長にとっても、商業都市津島は経済的台所であり、津島と熱田の支援によって尾張を統一し、天下布武の階段を駆け上った。「信長の台所 津島」といわれる所以である。津島の中心市街地は、江戸期の津島文化ともいべきものが今なお色濃く残り、懐かしい空間を形成している。現在の津島に残っている有形、無形のあらゆるものが、実は地域資源、観光資源であることを認識しなくてはならない。



津島中心市街地の活性化という観点からも、観光客が訪れて楽しめる「まちづくり」は重要な課題の一つである。市民一人ひとりが知恵をしばりあって、中心市街地を舞台とした総合催事が「信長の台所津島・まちあそび」である。伝統文化の息づく津島の町と市民参画型催事を進めることによって、「津島・まちあそび」が津島の賑わいの再生に寄与すると、考えている。

## 1-2、尾張津島天王祭が世界遺産に

文化庁は、世界遺産（ユネスコ無形文化遺産）に国重要無形民俗文化財 3 3 件を一括しての「山・鉦・屋台行事」の登録申請をした。この中に「尾張津島天王祭の車楽舟行事」が含まれていることは周知である。登録は今年の秋ごろになる。ユネスコ無形文化遺産に尾張津島天王祭の車楽舟行事が登録されることは、津島市の伝統文化の価値や魅力が高く評価されたものと考えられる。津島市の全国へのアピールになるとともに、市民のふるさとの歴史と文化に対する再認識につながる事が期待される。27年に引き続き、尾張津島天王祭の世界遺産登録を祈願して、5月5日のまちなかスタンプラリーの完歩賞には「尾張津島天王祭図うちわ」（1本/人、先着800本）を特別に用意した。



尾張津島天王祭が世界遺産に登録されることを契機に、津島の歴史文化を活かした「まちづくり」として、市民が主体となって、おもてなし精神の再生、まちなかの活性化、津島の歴史文化の発信、市民参画のまちづくり推進などに、より一層取り組む必要がある。

## 2、平成28年「信長の台所 津島・まちあそび」

### 2 - 1、「信長の台所 津島・まちあそび」今年で14回目

2005年「愛・地球博」の機運を津島で盛り上げようと始まったのが、2003年「津島・まちあそび」である。「愛・地球博」が終わった以降も「津島・まちあそび」は継続開催され、今年でなんと14回になった。永く続けることができたのも、市民の皆さんのお陰だと思っている。天王文化塾、NPO法人まちづくり津島は、名所ウォーキング、ガイドボランティア、町家・お茶室の保存などを先駆けて行ってきた。それらの活動の成果が「津島のまちあそび」といえる。

藤まつり期間中の「人の流れ」が町なかにもできたのではないだろうか。以前は、藤まつり会場の天王川公園には多くの観光客が訪れるのに反して、町なかは閑散としていた。「津島・まちあそび」が行われることにより、期間中には数万人の観光客の流れが町なかにもできた。観光案内所としての津島駅の総合案内所や本町の津島市観光交流センターにも多くの観光客が訪れている。

スタッフは、「みんなの手で津島の町なかをイキイキに！」という思いで活動している。近年、「着地型観光のまちづくり」に各都市が取り組んでいる。「津島・まちあそび」は「着地型観光まちづくり」そのものといえよう。今年も「おもてなし」精神を大切に、市内外の皆さんをお迎えした。

### 2 - 2、平成28年のテーマ 「おもてなし」

今年14回目の「津島・まちあそび」は、永年の活動を通して構築されたスタッフらのネットワークを生かし、藤まつりに訪れた人々を津島の中心市街地に誘引し、おもてなしの「まちづくり」の基盤づくりのために、市民主体の様々な自主催事を行い、楽しい町なか空間を創出することを目的とした。今年も、次のテーマを掲げて事業展開した。

「津島を訪れた人々をおもてなして楽しんでもらいましょう」

「みんなで遊びましょう」

まちあそびの分野としては、「知る」「造る」「味わう」「聴く」「観る」「買う」「巡る」の7分野であったが、新たに「健やか」を取り入れた。また、次の要素を催事に組み込むようにした。

- (ア)市民参加型催事の充実
- (イ)市民の手作り催事の展開
- (ウ)津島の歴史文化を発信する多様な講演会
- (エ)「お抹茶」文化の発信
- (オ)家族・親子で参加できる催事
- (カ)再生された町家での催事
- (キ)健やかをキーワードした体操・食事・脳トレの催事
- (ク)フリーマーケット、商店街イベントの開催

### 2 - 3、実行組織

主催：津島市観光協会、NPO法人まちづくり津島、天王文化塾

後援：津島市、津島商工会議所、西尾張シーエーティーヴィ（株）、津島市商店街連合会

2 - 4、「信長の台所 津島・まちあそび」催事一覧表

催 事	4 月										5 月					会 場 / 図 No
	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6	2 7	2 8	2 9	3 0	1	2	3	4	5		
市民歴史講座 第1回															津島市立図書館 (津島市老松町1-1)	
市民歴史講座 第2回															宝泉寺	
宝泉寺書院(国登録)公開															渡邊家住宅	
町家で陶芸 後藤眞子展															カネ長	
うとうと展 Vol.16															宗念寺	
カリグラフィー展Vol.12															蔵ギャラリーつづら	
あすみ展七宝焼とトールペイント															瑞泉寺	
中一色窯・葉手那窯展															観光交流センター	
わらもじ筆俱樂部															観光交流センター	
和花まま展															ルミエール 他	
津島つむぎまちアート化計画															愛宕町・日置町	
愛宕・猫道つなぎ展															観光交流センター	
山車&からくり人形披露															吉祥寺	
お寺でポチポチ写仏・薬膳粥															蔵ギャラリーつづら	
煎茶を楽しむ															渡邊家住宅	
町家渡邊家住宅でお抹茶															カフェ茶の間	
Season Cafe 茶の間															太田七宝店	
カフェ cloisonné															観光交流センタ蔵	
トノ割茶屋															吉祥寺	
昭和歌謡コンサート															宝泉寺	
弦奏会															瑞泉寺	
6時間耐久マラソン落語会															南地区コミュニティセンタ	
アマチュア落語名人会															成信坊	
AMD48 念珠づくり															蓮台寺 他	
でら寺巡り×きまぐれ市															駅総合案内所	
商い処ござ 初夏の宴卓															ダンケ	
愛西の里フェスタ															つしま商店街Map参照	
商店街まるごと100円ショップ															吉祥寺	
自彊術 無料体験会															神社東休憩所	
まちなか スタンプラリー															スタート 佐屋駅 受付 8:30~11:00	
名鉄ハイキング (尾張津島藤まつりコース)																
催 事	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6	2 7	2 8	2 9	3 0	1	2	3	4	5	会 場 / 図 No	
	4 月										5 月					

### 3、「信長の台所 津島・まちあそび」事業結果

#### 3 - 1、《知る》

津島の歴史文化を学び、今に活かすことを主テーマに活動してきた天王文化塾が17年目を迎えた。天王文化塾の講師陣が、海部津島の歴史文化を様々な角度から掘り下げた。本年『海部津島郷土研究 第1号』（頒価 800 円）を発売した。その研究内容に基づき、4月29日と5月1日の2日間、全6講座を開催した。入場無料、会場は津島市立図書館2階大集会室である。今年も6講座で延べ300人を超える人が市内外から聴講した。

今年は、《知る》新企画として、国登録有形文化財の宝泉寺書院を特別公開した。



#### 3 - 1 - 1、市民歴史講座 第1回 4月29日（金・祝）

10時30分～12時 『江戸初期における津島神主氷室家と堀田右馬大夫家の葛藤』

講師：黒田剛司（天王文化塾）

津島牛頭天王社（現 津島神社）の江戸期の様相を解明する上で、神主氷室家と社家社僧の関係、とりわけ筆頭神官堀田右馬大夫家との関係は重要と考えられる。戦国期から江戸前期の津島牛頭天王社の神主氷室家は神社内で絶対的権力者と思われがちであるが、神主氷室家、堀田右馬大夫家の系譜、文書などの調査により、度々免職されていることが分かった。このような度重なる神主の免職騒動の裏には、堀田右馬大夫家との葛藤の影がみえたと、報告した。



13時～14時30分 『郷土愛はふるさと検定から - 『ふるさと検定』等の実践を通して』

講師：浅井厚視（津島市立南小学校）

子どもたちが身近な地域の歴史に気づき、正しい知識や情報を手に入れ、地域の課題を解決するための方法を考える場が必要となる。「ふるさと検定」は主として観光を目的として、或いは生涯学習の一環として行われてきた。しかし、浅井氏は「ふるさと検定ジュニア版」を創り出す目的の一つは、郷土愛あふれるまちづくりに参画する子どもたちを育てることと考えた。本講座では、「ふるさと検定」の地域教材化を進めた研究内容を紹介した。



14時30分～16時 『天王川公園の開設とその経緯 大正期の一大プロジェクト』

講師：園田俊介（津島市立図書館）

天王川公園は津島を代表する観光地であることは言うまでもなく、地域の歴史・文化・生活を代表する場でもある。そのため、公園開設の目的や経緯を含めた事業全般について明らかにすることは、近代の津島の歴史を考える上で非常に重要であろう。本講座では、天王川の公園化構想が始まった大正7年(1918)から事業着工に漕ぎつけた大正9年(1920)までの期間を中心に、各方面の動向も含めて、公園化事業が単なる一事業ではなく、総合的な都市計画事業として位置づけられていたことを明らかにした。

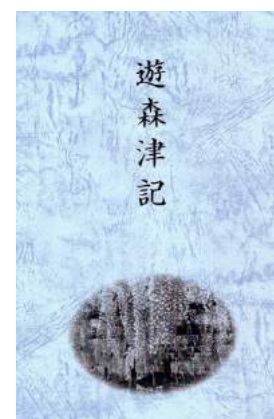


3-1-2、市民歴史講座 第2回 5月1日(日)

10時30分～12時 『「遊森津記」に見る海部の風景』

講師：服部一宏（弥富市学芸員）

森津の藤は、森津新田の開拓当時(17世紀)に植えられたと伝えられる古木で『尾張名所図会』にも紹介されている。『遊森津記』は、尾張藩士の宮田敏や澤田眉山、増田新甫が、現在の弥富市森津にある名所「森津の藤」を見物に訪れた際の紀行文である。名古屋城下を出発し、甚目寺からの柳街道や佐屋街道を通り、佐屋宿に至っている。佐屋宿から南下して綱浦村で服部伯隣と合流し、森津の藤を見学している。本講座では、この紀行文に描かれた海部の風景を紹介した。



13時～14時30分 『ある地域史研究への試み - 尾張国海東郡百町村吉川家文書の検討を通して』

講師：石田泰弘（愛西市学芸員）

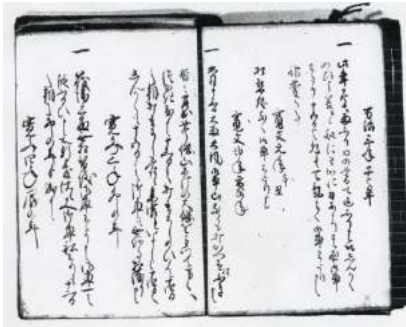
突然かつ偶然出逢った百町村吉川家文書、旧蔵者の史料に対する思いに応えるべく、さらには地域史料の活用のため、史料の地域への還元をむけての石田氏なりの一つの試みが本講座である。

吉川家文書の( )住民、( )人的移動、( )在方商業の三つの視点に着眼し、考察を試みた。これにより、その責務を負えるとは必ずしも思わないが、少なくともこの吉川家文書の存在を示したと報告した。地域史料の保存と活用の重要性を訴えた。



14時30分～16時 『「大祭筏場車記録」にみえる織豊期津島の村について』  
講師：羽柴亜弥（愛知大学大学院）

「大祭筏場車記録」を紹介しながら、当時の津島の村の様子について論じた。この「大祭筏場車記録」は、筏場車の車屋、大橋家に伝わったもので、筏場村が記録したものと



推定される。つまり、村の人によって記録されたものであり、当時の村の様子を伝えている史料である。今までの研究では、尾張津島天王祭の民俗的な研究に使われる事が多く、当該期の村の様子を読み取るという観点での分析は十分になされていない。この史料がどのような性格なのかを確認した上で、当時の津島の村の様子について報告した。

### 3 - 1 - 3、『国登録有形文化財の宝泉寺書院 特別公開』

公開日時：4月30日（土） 13時30分  
15時 各回定員10人

会場：宝泉寺（津島市池麩町2）

事前予約制で、国登録有形文化財の宝泉寺書院と松尾流宗匠設計の庭園を公開した。宝泉寺書院は三養荘書院「清風」と双子の書院である。凜とした空間を体感することができた。なお、入館に際しては資料代300円を徴収した。

